

表-5 感水試験紙の液斑の被覆面積率(%)

ノズル	感水試験紙 地上高	感水試験紙設置地点				平均	標準 偏差
		地点 A	地点 B	地点 C	地点 D		
PCノズル ²⁾		-10 cm ¹⁾	-10 cm	±0 cm	+5 cm		
	12~16 cm	4	3	3	6	4	1
	8~12 cm	11	5	5	48	17	10
	0~8 cm	30	21	22	37	28	4
大豆畝・株 ³⁾		±0 cm ¹⁾	+15 cm	-15 cm	+10 cm		
	12~16 cm	2	3	0	3	2	1
	8~12 cm	9	31	11	24	18	5
	0~8 cm	28	40	7	38	29	8
キリナシ140 ⁴⁾		-10 cm ¹⁾	+5 cm	±0 cm	+10 cm		
	12~16 cm	2	2	1	5	3	1
	8~12 cm	7	16	14	26	16	4
	0~8 cm	37	37	25	36	34	3

- 1) 設置した最適な高さを0cmとしたときの±で表記
- 2) PCノズル: 株式会社サンエー社製ドリフト低減ノズル「PCノズル」
(供試散布装置の標準ノズル)
- 3) 大豆畝・株: ヤマホ工業株式会社製除草噴口「大豆畝間株間用高角除草ノズル」
- 4) キリナシ140: 同「キリナシ除草直P-1頭口N-KA-15R 140型」

その結果、圃場走行時の凹凸による散布装置の高さの変動に対して、第1本葉平均地上高の位置にあたる地上高12~16cmへの液の付着程度は、何れのノズル使用時とも小さく、精度良く散布された事が示された(表-5)。

今後、数種除草剤の大豆に対する薬害と除草効果を評価し、散布機械および除草剤の適用条件を策定する予定である。

コラム

陸稲と水稲

陸稲を初めて知ったのは学生の時で、「畑で栽培できる稲」程度の知識で実物を見たことはありませんでした。その後県に入り陸稲育種(指定試験)に携わることになるとは思ってもいませんでした(後に水稲育種も担当)。陸稲は、畑で栽培するとガッチリ・わっさりと剛直な感じで育ちますが、水田で栽培すると環境がいいのか「楽してま〜す」と言う感じで、おとなしい草型になります。逆に水稲を畑で作ると「居心地がよくないです」と言った感じで窮屈そうに育ち、いもち病に負けてしまいます(いもち病は、畑の方が激しく発症するので陸稲は圃場抵抗性を持っています。)

また、水稲は交配のために親株(母)を採取してきても前日や当日の天候が悪かったり少し寒かったりすると、なかなか咲かず、夏でも暖房したりと苦労しますが(環境を選ぶ(敏感?)感じがする)、陸稲はわりと素直に咲きます。畑という厳しい環境に順応してきたせいなのか「咲けるときは咲く、チャンスは逃がしません」(鈍いだけ?)と言った感じです。「同じイネなのに、違うものなのだなあ」と当時(結構昔の話です)思っていたことを思い出しました。

眞部 徹(茨城県)